

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日: 令和3年 2月 24日

公表: 令和3年 2月 25日

事業所名: チャイルドハート東海植田北

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		利用人数を制限し、大きく動く運動の場合は、公園など外出している。	
	2	職員の配置数は適切である	○			
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○			
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		1日の予定をあらかじめ組み、業務後には反省等を行っている。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		送迎時やアンケート等で意見を集め、改善にむけ指導員間で共有を行っている。	
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在は、事業所、利用者からのみの評価を行っているが、必要に応じて第三者評価を行うことを検討する。
適切な支援の提供	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		本部での研修やケース会議を職員間で行い、常に新しい情報が入るようにしている。	
	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○			
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○			
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		イベント運営はリーダーを決め、それぞれが責任をもって取り組めるようにしている。	
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		個別、集団で柔軟に対応できるように指導員と話し合っている。	
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		普段できない屋外活動やお出かけを行っている。	
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		集団、個別どちらでもありのままに過ごせるよう指導員を配置している。	
15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		職員の関わり方、利用児童の最近の様子などを共有し、支援の在り方を話し合っている。		
16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		関わり方の反省や、様子の共有を行い支援の向上に努めている。		

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		子どもたちの様子だけでなく、表情や気持ちを記載している。	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		半年、状況に応じて短期間で保護者、職員間でモニタリングを行なっている。	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	○			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		関わりの深い指導員が参画し、他指導員からの聞き取りも行っている。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		必要があれば進学にむけての会議に参加するなど連絡調整を行なっている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		○		現在利用がないが、今後利用があった際は密に連携をとっていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		○		保護者からの情報以外にも、必要があれば、園での様子等聞き取りも検討していく
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		○		現在就労に移行した児童はいないが、今後継続的に支援が出来るよう情報共有を行っていく。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○			
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○		公園で地域の児童を交えて遊ぶなど関わりを大切にしている	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	○			
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		送迎時、支援後の電話で様子が伝わるよう努めている。	
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		療育の視点から、伝え方、対応などについて、求められれば伝えている。		
保護	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○	活動の様子をまとめた写真展や映像の上映会を行っている。	定期開催が出来ていない為、月に1度の定期開催を今後行いたい。

護者への説明責任等	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		速やかにスタッフ間で共有し改善を進めている。	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している		○		お便りが現在作成できていないため、今後作成していく。
	35	個人情報に十分注意している	○			
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		必要があれば今後検討していく。
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		感染症については定期的に文書を配布するなど新しい情報が伝わるよう工夫した。	今後防災、防犯についても指導員が変わるごとに保護者に伝えて行く。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○			
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		保護者からの伝達は受けているが医師とも必要に応じて連携をとっていく。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			